



DF15周年記念特別企画
モンゴル視察旅行

「モンゴル旅行6日間」



昨年11月の講演交流会で行われた、モンゴル国商工会議所日本会頭のUウルジさんの講演がきっかけとなって実現し、DFの15周年記念事業の一環として、「一般社団法人モンゴルセンター」との共催で実施された「モンゴル視察6日間の旅」(8月17日～22日)のレポートです。
以下に、この感動と共感の旅の神髄を報告致します。

2016年10月

レポート 旅行幹事 櫻井三紀夫



Mongol Center
モンゴルセンター



DIRECTFORCE

主催：一般社団法人 モンゴルセンター・一般社団法人 ディレクトフォース
後援：駐日モンゴル大使館・モンゴル国商工会議所



ツーリストキャンプ（イメージ）



草原での乗馬（イメージ）



巨大チンギス・ハーン像（イメージ）

特別企画「モンゴル視察6日間」のご案内

このツアーは、成田空港からの直行便利用でモンゴルの公的機関と民間企業訪問・市場視察、そして、モンゴル古代文化のシャーマニズム精霊体験、さらに、遊牧民宅訪問・満天の星空・乗馬などが体験できる盛り沢山の5泊6日の感動の旅です。このたびは、各関係機関の協力をいただき実現出来ました。ぜひ、この機会に特別企画「モンゴル視察6日間」にご参加ください。

日次	時刻	日 程	食事
【1日目】 8/17 (水)	12:10 14:40 20:10	- 成田空港第1ターミナル4階のミット・モンゴル航空のカウンター前で集合 - ミット・モンゴル航空OM-502便にて、ウランバートル空港へ - ウランバートル空港到着。通関後、専用バスにてホテルへ（ウランバートル 泊）	昼：× 夕：機
【2日目】 8/18 (木)	午前 午後	- チンギスハーン広場見学、集合写真撮影 - モンゴル国会議事堂内にてモンゴル国会議員との面談 - 在モンゴル日本大使館表敬訪問 - モンゴル国商工会議所表敬訪問 - モンゴルのファッションショーを楽しむ - 夕食は市内レストランにて（ウランバートル 泊）	朝：○ 昼：○ 夕：○
【3日目】 8/19 (金)	午前 午後	- ホテルを出発、日本人墓地参拝へ - 母子家庭自立プロジェクトチャツアルガン畑見学 「日本語センター」訪問、日本語で実習生と就職を目指している青年との交流 - モンゴル伝統舞踊団コンサート - 夕食は市内レストランにて（ウランバートル 泊）	朝：○ 昼：○ 夕：○
【4日目】 8/20 (土)	午前 午後 夜	- テルレジに向け出発 - チンギスハーン巨大像を見学 - スピリチュアルのタイミング、「モンゴルシャーマン」行事に参加 - 夕食はゲルキャンプにて、夜の星空を楽しみながら、モンゴル伝統の願いを伝える行事を行います（ゲル・ツーリストキャンプ 泊）	朝：○ 昼：○ 夕：○
【5日目】 8/21 (日)	午前 午後	- 遊牧民のゲル訪問、乗馬体験後、ウランバートル向け出発 - ウランバートル市内観光ガンダン寺、歴史博物館 - カシミア専門店とデパートにてショッピング - 夕食は市内レストランにて（ウランバートル 泊）	朝：○ 昼：○ 夕：○
【6日目】 8/22 (月)	06:30 08:55 13:40	- ホテルより空港へ - ミット・モンゴル航空OM-501便にて、成田空港へ - 成田空港到着。着後解散	朝：機 昼：×

日程と訪問先の行程表

はじめに

今回のモンゴルツアーは、DFとして初めての海外団体ツアーで、真瀬代表を初め、18名のメンバーが加りました。

視察旅行全体の企画を、モンゴル国商工会議所・日本会頭のウルジさん、理事の小野野さん、西澤さんがきめ細かく作り上げ、現地にも同行してその場で臨機応変にアレンジ調整してくれたお蔭で、予定した訪問・観光・体験がすべてスムーズに運びました。そのモンゴル側の3名と参加者18名のコラボレーションも絶妙で、当初の予想をはるかに超えた素晴らしい旅となりました。

訪問先も、普通の旅行会社のガイドや添乗員ではとても実現できない重要機関が多く、国会議事堂見学や国会議員との意見交換、モンゴル駐在大使館での大使からの日本・モンゴル国交状況の説明、また、モンゴル商工会議所副会頭からの国情説明と相互協力可能性の打診、日本からの支援で活動を続ける施設での人的交流、等々、民間のツアーとは全く次元の違う世界を体験できました。

それらにより、モンゴルの国としての成長と課題、格差の問題、日本に対する期待などを認識でき、これを機にDFとして何か少しでもお役に立てる事項があれば、との認識を持ちました。

参加メンバー同士は、互いに初対面の方々がおられ、個人的に挨拶をしたり会話をしたりする機会となりましたし、このツアーを通して親しく交流できたことが、旅で見聞したもの以外にも大きな収穫となりました。

以下に、時間軸に沿って、紀行文的に視察と旅の全貌を記述します。ご一読頂ければ幸いです。



1日目 成田空港

台風6号の到来で飛行機が飛べるのかどうか心配したが、うまい具合に早めに台風一過となり、時間通り出発できたので、幸先良し、とツアー成功の予感がした。ウランバートルでの宿泊は、高級なケンピンスキーホテルであった。

2日目 モンゴル商工会議所

(公式訪問)

スフバートル広場(旧チンギスハーン広場。6月に政権が代わって元々の名前に戻った)で、国会議事堂や周辺の国家機関の建物、オペラハウスなどを見学した後、まず、モンゴル商工会議所を訪問、副会頭との会見を行った(会頭は女性で、海外出張中)。副会頭から次のような説明があった。

- ①日本―モンゴル間のEPAが締結され、モンゴルの5000品目、日本の9000品目が関税優遇措置の対象となることに決定(原産地証明があれば、低関税で輸出入できる)。
 - ②これまで、ロシアと中国が貿易の中心だったが、第3の国として日本を考えている(日本からの新空港の建設支援、縫製工場の供与(朝青龍の仲立ち)などがある)。
 - ③日本からの技術、人材の支援が欲しい。
- ・地下資源に投資してくれる国は多いが利益は皆その国に行ってしまう。モンゴル自身が産業を強化して行くには、人材教育、技術指導をしてもらう必要である。



スフバートル広場・議事堂前全員



商工会議所前全員



モンゴル商工会議所前景



商工会議所・会見中

2日目 モンゴル駐在日本大使館

(公式訪問)

清水モンゴル駐在大使より次のような説明があった。

①モンゴルは、1989年までソ連の衛星国家、1990年からペレストロイカ・学生運動で体制が変わった。この時、当時駐在していた清水氏が

- ・モンゴルは、マレーシアのマハティール首相の「Look East」に倣って、日本に指導を求めることを定着させてきた。しかし、国費留学して日本で勉強すると、日本で就職する人が多い。モンゴルに産業がないためだ。
- ・「高専」が必要だ。実務のできる人が不足している。日本の企業OBの人が教官になってくれないだろうか。
- ・モンゴル商工会議所とD Fとの間で協力関係を作ることはいらないだろうか。
- ④モンゴルはアジアで指折りの親日国である。戦争直後、シベリア抑留者がモンゴルに連れて来られて、国会議事堂やオペラハウスその他ウランバートルの重要建物を建設してくれた。その建物はとてもいいに作られていて頑丈で現在も使われており、モンゴルの人達は今でも日本人に感謝している
- ⑤安倍首相はこれまでに3回もモンゴルを訪問し、日本人墓地にも参拝している(後述)。
- ⑥モンゴル人は、チンギスハーン帝国の末裔なので、皆、社長になりたがる。実務者がいない。



日本大使館前で（全員）



大使館のゲストブック



日本大使館前 清水大使

ら外務省に「日本が先頭に立って支援すべき」と提案。素早く動いて、第4火力発電所の修復などを行ったことが親日国になった一つの理由。

②その他に、モンゴル鉄道レールと中国鉄道レールの幅が違い、輸出入が滞っていたので、モンゴル側に汽車積み替え施設を建設・供与した。

人材教育のために留学生70人・年を日本に送っている。また、学校5校を寄贈、320校を修復。草の根支援（1件1000万円以下の支援）500件実施。

それらを声高に宣伝している（「陰徳」ではモンゴル国民に認識されないのだ）。

③2011年、清水氏が大使として着任。以来、5年経過。5年続けて同じ国で大使をやる例は稀。モンゴルを愛し熟知しているであることを買われている。

④現在は、世界的に資源水河期（資源の価格が暴落）でモンゴルの景気も悪い。新たに、イギリスの鉱山会社が6000億円投資して、地下掘り金銅鉱山を開業する。これなどで、景気回復を見込んでいる。

2日目 国会議事堂

（公式訪問）

国会議員のエンク・アムガラン氏他2名から以下のような説明と意見交換があった。

①日本・モンゴル間のEPAが締結された。（前述）

②ODAの支援でウランバートル新空港の建設が進んでいる（元請：千代田化工↓サムソン↓モンゴル建設会社）。



モンゴル国会議事堂にて



国会議員と会見



モンゴル国会議事堂玄関前



議事堂内タビストリー

③日本からは、KDDIの投資が最大である。

④モンゴル新政府（今年6月に政権が変わった）としては、中小企業の育成を重視。

そのために、日本からの技術導入をしたい。これによりモンゴル自身の産業を形成したい。

⑤日本の1960～70の成長を参考に、モンゴルへの投資、技術供与などを求めている。特に、ノウハウや経営管理手法などのソフトウェアの強化を希望。

⑥（モンゴルでは、女性の役職者や活動が目立つが、どういう背景か？という質問に対して）

6月の総選挙では、76人の議員の内、17.5%が女性議員となった。モンゴルではもともと女性が強、男は女性に牛耳られている。働く女性のかなりの部分は祖父母に育児を頼んでいる。また、保育所・幼稚園も利用している。

⑦ちなみに、この国会議員との意見交換会を手伝ってくれた議員秘書は、弘前大学に留学・卒業した若者であった。

2日目 モデル養成学校 ファッションショー

（公式訪問）

ウルジさんの知り合いで元・ミスワールドモンゴル代表の女性が経営しているモデル養成学校を訪問し、モデル志望の若い男女による特別開催のファッションショーを見せていただいた。通常の教室でのショウなので、モデルと衣装デザインを極く間近で見学でき、



ファッションショー (全員)



夕食 ウクライナ料理



昼食・モンゴル風しゃぶしゃぶ



ファッションショー

3日目 日本人墓地参拝

ファッションショーをほとんど見たことがない我々にとって貴重な経験となった。
プロポーション抜群で美女ぞろいのモデルさん達は圧巻で、ファッションよりもモデルさんを眺めて楽しんでいる感じだったが、写真のシャッターチャンスは難しく、なかなか良い写真が撮れなかった。
2日目の昼食は、中国の火鍋に似たモンゴル風しゃぶしゃぶであったが、牛肉、豚肉、羊肉と種類が豊富で、野菜も沢山あったので、食べきれないほどだった。タレも醤油味、ゴマ味、火鍋のような辛み味の3種類あり、とても美味しく食べられた。
夕食は洒落た雰囲気のレストランで、普通のヨーロッパ料理と変わらないウクライナ料理を楽しんだ。

戦時に駆り出された兵隊さん、強制的に移住させられた民間人の方々が敗戦で捕虜となり、シベリアからモンゴルに送られて、モンゴルでの建設作業に従事させられた。極寒と飢えの中で今に残る立派な建物を建設し、苦しみつつ亡くなっていった人々1500人ほどが日本人墓地に祀られている。

悲惨だった当時の状況を想像するだに悲しく、今回参拝できてほんとうに良かった。慰霊堂の中に用意されていた「ふるさと」うさぎ追いし...の歌詞を皆さんで歌った時、涙ぐんでいた我々に加えて、モンゴル人のウルジさんが涙ぐんでいるのを見て感銘を受けた。ウルジさんは、慰霊碑に掲げられている碑文(モンゴル語)を日本語に翻訳したご当人で、その日本語



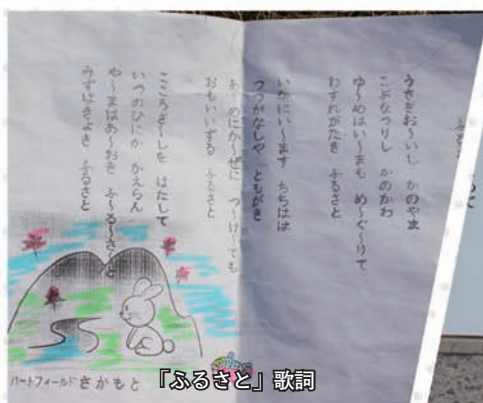
「ふるさと」を歌う



墓地観音像



日本人墓地遠景



「ふるさと」歌詞



慰霊碑前ウルジ氏

3日目

母子家庭自立支援センター訪問

ウランバートルの企業家の夫人2名とウルジさん達が支援している母子家庭自立支援センターに親善訪問した。このセンターはウランバートル郊外の丘陵地帯にあるが、悪路と急坂のため、四輪駆動車でポコポコに揺られながら走り抜けて到着した。

この施設では、チャツアルガンという植物を栽培し、その果実（ブルーベリーのような成り方をする黄色い実）を収穫して、ジュースやジャム、果実オイルを作って生計の足しにしている。

チャツアルガンの実のジュースやジャムは、胃腸を整えビタミンも豊富で健康に優れた食品として、高値で取引される。また、実から絞ったオイルは、肌を若返らせすべすべにする効果の高い化粧品として珍重され

の碑文と一緒にプレートに刻まれており、すごい人なんだと改めて思った。ウルジさん自身も自分の翻訳分がプレートとして掲示されているのを見て、感慨深げであった。

墓地での話題としては何だが、墓地脇の甚だ汚いトイレでのエピソード。女性用のトイレが汚くて使えなかったため、床板に穴を開けただけの男性用トイレを使うことになり、一人が入って他の女性達が周りを監視するという形で使った時、女性たちが最高に盛り上がり、気合を入れてトイレに入ってゆく姿がユーモラスで、男性陣も大いに笑顔で見守った。思わぬ和やかなハッピーングだった。



母子家庭自立支援センター・ゲル



少女の挨拶



チャツアルガンの実



少女の挨拶



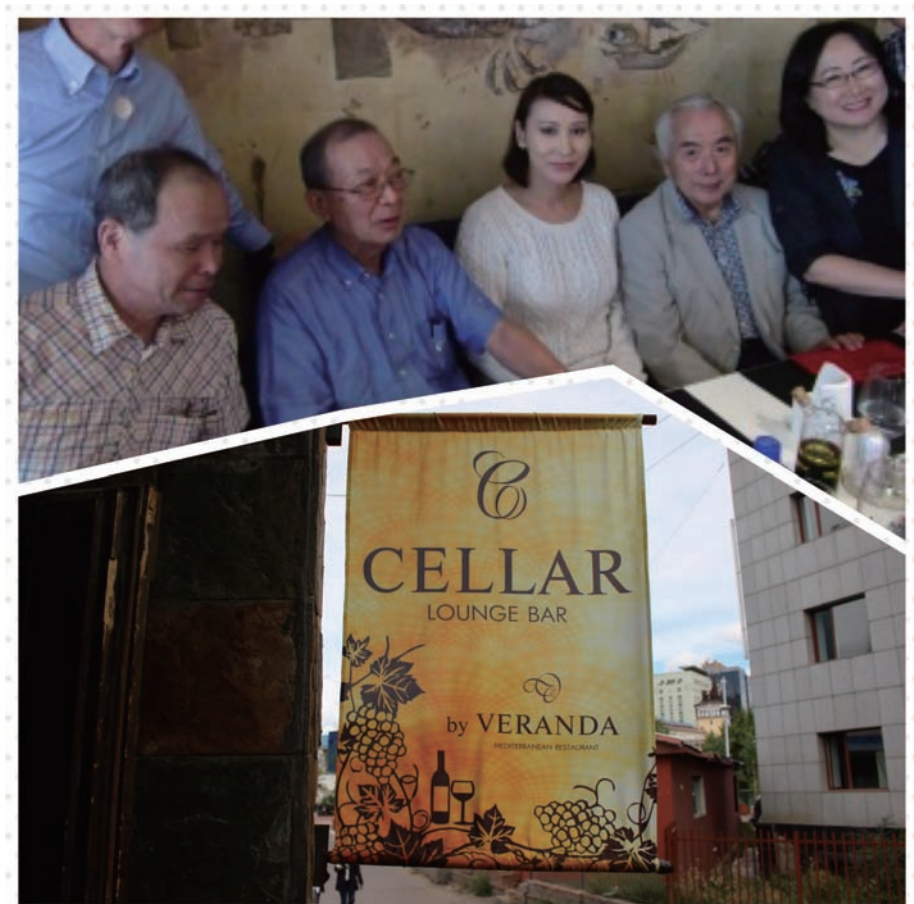
自立支援センター前（全員）

ており、モンゴル国内ではほとんど店頭に置いてないが、日本ではデパートなどで売られているという。母子家庭の生活は貧しく、一日一回しか食事にありつけないような境遇だが、苦しい生活の中にあっても明るく気丈に振舞っている母子家庭の皆さんを見てちょっとホッとした。一方で政治の貧困と格差の問題を強く感じた。

ここへ来る途中、長い塀に囲まれた富裕層の広大な住居地の側を通ってきたので、余計に格差の大きさが感じられた。

政府は何もやってくれないという、ウルジさんや小野寺さん・西澤さんの説明が気になったのと共に、そんな中、個人で支援しているウルジさん初め関係の方々に頭の下がる思いがした。この施設から既に日本の大学に留学した子供もいるとのこと、やはり、貧困から脱出するには教育が一番必要なことなのだろう。我々は何ができるだろうか、何をやらねばならないのだろうか、D Fとして何かできることはないだろうか、という思いが皆の頭を駆け巡った。ボランティアを募集してモンゴルにチャツアルガンを植樹しに行くとか、農園規模をもう少し拡大するとか、など、D Fメンバーの経営感覚をちょっと活用すれば、この支援センター事業を相当改善できそうに感じられる。

それにしても、我々からお土産をあげた時に、代表してお礼の挨拶をした女の子（10才くらい）は何と利発そうで可愛らしかったことだろう……。前向きで活動的な女性に成長することを祈る。



昼食レストラン

3日目昼食時

横綱白鵬のお姉さん

昼食時に予定のヨーロッパ料理のお店に入った時、偶々、横綱白鵬のお姉さんという人が食事に来ていて、ウルジさんの親しい知人だったため、参加メンバーにも紹介してくれて、写真も撮らせて貰った。今、白鵬に代わっていろいろ経済活動や福祉活動をしているという実業家で、体が大きくスタイルも良く色白な美人だったのでビックリした。少しロシア系の血が入っているような感じで、ヨーロッパ系の顔立ちと感じられた。

この出会いは、良い方の想定外で、サプライズだった。

3日目市内観光

伝統舞踊団鑑賞

市内観光最初のガンダン寺では、色彩鮮やかな外観の本堂と、その中に安置された超大きな金色の仏像や沢山のミニ仏像が印象的で、我々が日ごろ慣れ親しんでいる侘びさびの寺院と少し違う華やかな仏教寺院の拝観だった。こんな大きな仏像をどうやって造ったのかとの疑問が沸いたが、金属の板を繋いで溶接したものだということだ。

次に訪れた清水大使お勤めのザナバザル美術館では、7つの眼を持つWhite Taraという観音像（世界で最も美しい仏像と呼ばれている）を初めてする素晴らしい仏像アートの作品を鑑賞できた。7つの眼とは、両



ガンダン寺本堂



伝統舞踊館前



金色の本尊



伝統舞踊館・緞帳



伝統舞踊館内



夕食・モンゴリアン・バーベキュー



ザナバザル美術館

眼+額、両手、両足に目が有り、七方をくまなく見渡しているということだ。複雑な歴史の時代背景の中で、この様な芸術品が損なわれずに残されていることに感銘を受けた。

夕刻には、伝統舞踊団コンサートの鑑賞があり、本格的なモンゴル舞踊や超柔かい身体での曲芸的なパフォーマンス、伝統楽器（馬頭琴など）によるオーケストラ、ホーミー（モンゴル独特の発声法）による一人と同時に高低二重音を発する発声法）の演奏など、モンゴル文化の粋をエンジョイできた。

3日目の夕食は、モンゴリアンバーベキューだったが、店の雰囲気、料理の仕方・出し方が独特で、楽しい場所だった。基本的にはビュッフェ・スタイルなので、野菜やサラダ、煮物、デザートなどは皿にとって自分の席に持って行くのだが、肉料理だけは、肉と野菜を皿に取ってカウンターに持って行き、タレ味を指定してその場で炒めてもらう、というやり方だ。焼く鉄板は円形で直径2m位の大きさ、カウンターで受付けた番号①②に従って番号順に鉄板上に並べ、順次焼けるに従ってカウンターの番号のところに出来上がり品を持ってくる、というもの。

鉄板上で具をひっくり返すための道具が細長い鉄の板で、これをテクニック豊かに振り回して調理する、そういう曲芸技を観ながら焼けるのを待つ、面白さのあるバーベキューだった。時には、振り回しに失敗して誰かの炒め物が床に散らばり、泣く泣くわずかに残った肉の切れ端を皿に乗せられて自席に戻る人もいた。興味に惹かれて皆さん相当に食が進んだようだった。



草原で鷹と戯れる



途中のスーパーでチャツアル
ガンジュースを購入



4日目

テレルジ国立公園への途中 スーパーで買い物

国立公園に行く途中の近代的で品物が溢れる大規模なスーパーで、前日訪れた母子家庭の自立プロジェクト、チャツアルガン畑に間接的ではあるが少しでもお役に立てるのではないかと、日本への土産にチャツアルガンのジュースやジャムなどを沢山買い込んだ。ところが、どれも瓶詰めで結構大きく重いため、その後の運搬や帰りの飛行機の荷物パッキング等で苦労した。この辺にもいろいろ改良の余地がありそうだ。

4日目 テレルジへの途中 鷹匠・ラクダ乗り

これもテレルジへの途中の道端で、鷹匠のように各種の猛禽類を腕に乗せるところがあり、皆さんトライして写真に収まった。2番目に大きい鷹でさえも、腕一本で支えるのがやっとで、本当に重かった。また、ここにはラクダもあり、乗せてくれるので何人かが試乗した。ふたコブ・ラクダで非常に乗りやすく、引いてくれる人がいるので、安心して乗ることが出来た。いずれも日本円で250円〜300円程度で、驚く程の安さだった。



チンギスハーン巨大像・顔



チンギスハーン巨大像レストラン



チンギスハーン巨大像前（全員）

4日目

チンギスハーン巨大像

チンギスハーンの巨大像は、2、3年前に韓国とドイツの資本で作られたもので、本当に大きく迫力あるものだった。騎馬のうなじの部分にある展望台まで上れるし、そこから見られる景色の眺望も素晴らしいものだった。うなじの部分からはチンギスハーンの大きな顔が直近に見られ、大変な迫力だった。こんな大きなものを良く作ったなどその技術にも感心するが、韓国の企業が作ったということでもちょっとガッカリもした。日本の企業なり法人が請け負うようになればなあ、と思う。

巨大像の麓の広場に、等身大くらいの騎馬兵士像が10騎程建てられており、100万円出すと自分の顔で騎馬兵士像を作ってそこに一緒に置いてくれるという話だ。歴史に自分の騎馬兵士像を残せるというから、どこかの国の金持ちはずい話に乗りそうだと。いずれにしろ、ここはこれからの観光の目玉になることだろう。

テレルジでの昼食は、チンギスハーン巨大像の土台になっている建物（＝観光館）にあるレストランだった。肉料理で、味は普通の日本の洋食と同様の都会的なものだったが、肉はしっかりした赤みで歯ごたえがあった。



ウランバートルの市街を囲んでいる無数のゲル



ウランバートルのの中心地

4日目 テレルジ

モンゴル・シャーマン行事

(ここは秘事のため写真なし)

普通ならとても来てももらえないシャーマンが、ウルジさんのお陰で来て貰え、その服装、たたずまい、祈祷など非常に興味の持てるものを見せてくれた。モンゴルのシャーマンは、大学での講義も受けており、国家資格があるそうだ。

祈祷は限られた人数の人しか受けられなかったが、かなりの時間を掛けて一人一人の過去と現在の状況を引出し、サジェスチョンを与えてくれる姿に古代からの文化を感じることが出来た。

また夜の火を焚いての祭祀(祈り)も幻想的で興味あるものだった。シャーマンの見立て(診察や手当?)が効くかどうかは、結局診てもらった本人がシャーマンを信じるかどうかの問題と思われるが、病気は気からと言うので、信じる人こそ救われるということだろう。直接診てもらった方に何らかの効果が現れると良いのだが……。

ちなみに、ウルジさんもシャーマンの資格を持っているそうだ。恐れ入る。

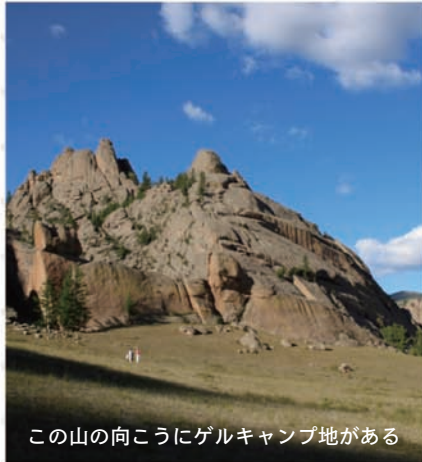
4日目

ゲルキャンプでの宿泊体験

ツーリストキャンプでのゲル宿泊は、観光客用に整備された施設が中央にあり、ゲルに泊まって、食事とシャワー・トイレは中央の施設に行く、という形で、予想外に快適なものだった。



ゲルキャンプ地



この山の向こうにゲルキャンプ地がある



ゲルキャンプ・食堂



ゲルキャンプでの懇親会
航空局長（黒い服の女性）



ゲルキャンプ地・女性3名



ゲルキャンプ地・懇親会

5日目

遊牧民のゲル訪問と乗馬体験

今回の乗馬体験は、数名の経験者を除いて引き馬だったが、1時間も馬に乗って見渡す限りの広い草原を散歩でき、気持ちのいい体験となった。真瀬さんや三木さん、西澤さん等、引き馬なしで自分で乗馬できた方々はさぞ気持ちが良かったことだろう。モンゴルの草原を馬で疾走できたら、さらにさらに気持ち良からうが、これは夢のまた夢だ。

レストランはもちろん、トイレや洗面所も新しく整備されており、トイレット・ペーパー等の心配も全くなく、ちょっと拍子抜けという感じだった。日本人墓地でのあの女性たちのトイレの盛り上がりは全く見られずに済んだ。

快適なのは結構だが、日本では言えまるでバンガロータイプのホテルに行っているような感じで、便利過ぎて何となく味われないと言うか、本来のモンゴルのゲル生活を体験してはいないような感じを受けた。

5月に同じ場所に来た人は、トイレや洗面施設が全くなく、いろいろ苦労したと話していたので、観光客用に突貫工事で施設の整備を図っているものと思われる。

夜のゲル内での懇親会は楽しく、皆さんかなりのウォッカを飲み、美味しかったと評判だった。

ウルジさんの大学の後輩である、女性のモンゴル航空局長が差し入れを持って懇親会に参加してくれたので、会は一層の盛り上がりを見せた。

この航空局長には、後日、大変お世話になることになった。（後述）



乗馬の馬たち



乗馬・準備運動



乗馬・引き馬



乗馬・自走する真瀬さん



乗馬・草原



超固いチーズ菓子



和食レストランでの品食



馬乳酒（右の白いビン）など

5日目 ショッピング

この日の昼食は、最初のケンピンスキーホテルに戻って、2階の和食レストラン「さくら」での御膳だった。1週間ぶりの和食で、しかも、しっかりとした造りの日本料理だったので、皆さん美味しく堪能すると共に、胃腸を休める機会ともなって、にぎやかな談笑が続いた。

乗馬の起点にあった遊牧民のゲルは、観光客相手に日銭を稼げるせいか比較的裕福な感じで、綺麗にしていた。ここで試食した、乳製品を干して固めたような薄茶色のチーズは、超固くて歯がたたなかった。ところが、ウルジさん初め現地の人は、簡単に噛み砕いて食べているようで、さすがモンゴルの人は歯が丈夫で、逞しいと思った。

また、馬乳酒もテイストしたが、やや酸っぱい感じでアルコール度はそんなに高くなかった。あまり美味いとは思われなかったが、甘味を調節すれば「カルピス」になる、ということは良くわかった。

ウランバートルの都心に戻って、ショッピングに案内してもらった。カシミア専門店では、奥さんへのお土産に薄手のショールを買う人が多かった。モンゴルで1、2位を競うブランド店なので、価格がリーズナブルな割に品質が良く、肌触りがすごく良いと好評だった。皆さん、爆買い程ではないが沢山買い込んでいたので、お店の人は結構喜んでいたらと思われる。

次に、我々だけではとても行けないような地元の市場に連れて行って貰い、キャビアのご推奨品を購入した。皆さん沢山購入していたので、周りのお店の人や地元のお客さん達は、何が起こったのかという風に興味深



ノミンデパート・カシミア専門店



ノミンデパートお土産売り場



食料品市場・キャビア



ノミンデパート本館



最終の晩餐会

く見ていた。ここでもお店の人は喜んでくれたものと思う。

最後にノミンデパート中央店で、チョコレートなど細かな土産物を思い思い沢山購入した。

この日、ウランバートルの最後の夜だったので、皆さんで晩餐会をおこなった。高級感あふれるレストランで、牛肉をメインとした洗練されたモンゴル料理のコースを食べながら、ビール・ワインで気分もハイになり、旅の全貌に亘って感想・意見・エピソードの飛び交う楽しい晩餐会となった。

6日目 ウランバートル空港

いよいよ帰国の朝、ホテルを6時30分発のバスで出発。空港に着いてみると、我々が乗る飛行機だけ、Delayedマークがついており、しかも、7時間遅れ！何事かと思っ理由を聞くと、日本の関東地方に台風9号が接近中で、成田空港が閉鎖されているため、ウランバートル空港で足止めということだ。成田からの出発時には運良く台風を避けられたが、逆に帰りは運悪く捉ってしまった感じ。これは想定外で、このツアー初めてのトラブルらしきものとなった。

ウルジさん、小野寺さんは、国会議事堂で打合せがあるということで、今日は朝から別行動になっており、「さあ、我々はどうするか？」という事態だった。真瀬さん、西澤さんの機転で、先日ゲルの懇親会に来てくれた航空局長に頼んで、待ち時間を過ごしやすいうに手配してもらおうという事になり、何とかVIPルームのラウンジに入ることができた。さすがに無料という訳にはいかないので、各人料金を払って入った



飛行場待合室



安倍首相のスーパーマリオ



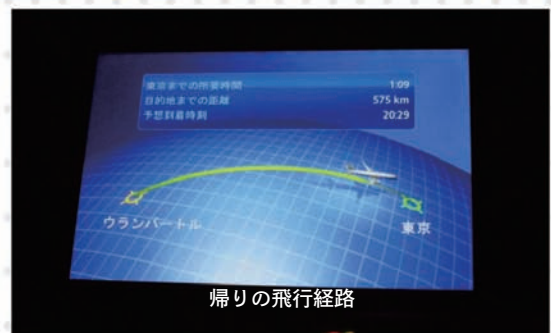
VIPラウンジ



小池都知事がオリンピックの旗を受取る場面

FLIGHT NO.	DESTINATION	SCHEDULED TIME	ACTUAL TIME
SU331	MOSCOW	08:10	08:10
UM223	BEIJING	09:10	09:10
M0801	ULANBAT	10:10	10:10
CA902	BEIJING	12:50	12:50
AC0000	SEOUL	14:20	14:20
GM7071	MONGOLIA	14:20	14:20
MR8861	ERLIAN	14:20	14:20
UM301	TOKYO	14:20	14:20

飛行機の遅れ表示



帰りの飛行経路

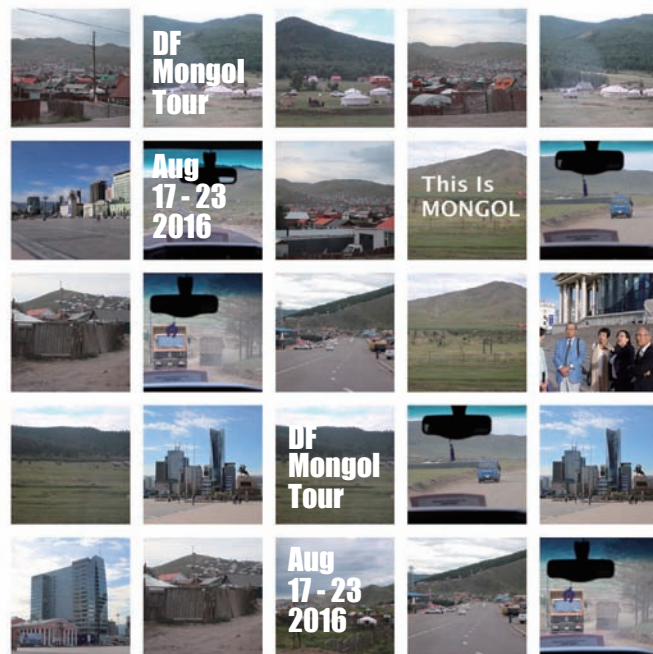
6日目 成田空港

成田に着いてみると、台風の影響で遅れていたのは、我々のみならず、世界中の飛行機であり、各方面からの飛行機がほぼ同時期に成田に到着したわけだ。成田空港は飛行機も人も大混雑だった。日本人用の税関はそれでもまあまあ時間で通過できたが、外国人用の税関はものすごい行列になっており、通過するのに明け方までかかったのではないかとと思われる。

通関した時には、空港リムジンバスも全部終了、当日中に帰宅できるか心配だったが、何とか成田エクスプレスなど電車を乗り継いで夜中には無事帰宅できた方が多かったようだ。

その後、ウルジさん達が国会での打合せを終えてVIPラウンジに来てくれた。税関の特別扱いをアレンジしてくれて、我々が免税店に買い物に行って再びVIPラウンジに戻ってこられるように手配してくれたので、モンゴル最後の買い物、特に、ウォッカの推奨品の買い物をすることができた。

台風の進行状況次第では、当日の運行が中止になるのではないかとヒヤヒヤしたが、今度は運良く7時間遅れのままで飛び立つことができた。



DF Mongol Tour
report Sakurai Mikio
photos Hosaka Hiroshi.
2016 Fall

おわりに

①ウランバートル市街地は車の洪水で、定常的な渋滞に悩まされている。これを解消するのも緊急の課題だろうが、それ以上に、車の排気ガスおよび石炭火力発電・石炭暖房の排気ガスで、近い将来都市部では中国同様大気汚染の問題が深刻化してくるだろうと思われる。

この辺に日本の技術支援が役立つ時が来るだろう。②それに比べ、（誰かが質問していたが）自転車やバイクが極端に少ないのは驚いた。

夏以外は寒くて路面凍結するので、2輪は普及してないとの事だが、中国や東南アジア初め諸外国と大きく違うのでビックリだ。この寒さを実際に体験していないが、それだけ寒いという事だろう。

③モンゴルの料理は思っていた以上に美味しかった。我々が行ったレストランは皆一流レベルが選ばれていたのだと思うので、日本人の口に合うように調理してくれているのだろうと感じた。

④モンゴルの人は皆さん（男性も女性も）体格が良く、骨格もガッチリしている。モンゴル相撲もあり、日本の大相撲を席巻してしまったのも道理かも知れない。気合いだけではなさそうだ。

⑤モンゴルの女性は遅しい。社会進出も日本に比べ進んでいるし、良く働きタフだと感じた。また、若い女性は足が長くスタイルも良く、思った以上に美人が多い国だと感じた。

以上